

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第12回)

議事概要

令和6年12月2日(月) 15:00~17:00

於: 経済産業省別館11階 共用会議室1107

- 渡島トンネルについては、既往の地質踏査、弾性波探査、鉛直ボーリング調査の結果とこれまでの施工実績に加え、追加で実施した長尺ボーリング調査、空中電磁探査の結果とを組み合わせ、地質を分析することにより、未掘削区間の地質想定について改めて議論を行った。現時点で得られている限りの情報から地質不良区間の範囲などについて一定の想定をするが、不確実性が残ることに留意が必要である。
- 羊蹄トンネルについては、有島工区において岩塊の出現によって再度掘進が停止し、その近傍では、今後も岩塊が出現する蓋然性が高いことを確認した。この影響も含めて、改めて今後の掘削の見通しについて議論を行った。
- 土木工事、設備工事、監査・検査の相互の関係を踏まえつつ、蓋然性の高いリスクや工程短縮策を考慮し、全体工程の検討を行った。その上で、2030年度末完成・開業が困難であると判断した旨の機構の報告の妥当性や現時点でのリスク想定に基づく開業時期に関する今後の見通しについて議論した。
- 次回の会議においては、各委員からの指摘事項を踏まえて議論を深めるとともに、全体工程まで検討が至ったことを踏まえて、本有識者会議のとりまとめの議論を進める。

以上